



### 2025年まであと10年

“地球滅亡まであと1年”は、宇宙戦艦ヤマトの有名なセリフですが、“2025年まであと10年”は、多死時代を迎える日本の現実です。1年間の死亡者数が160万人を超え、救急病院をはじめ、一般病院での入院事情はとても厳しいことが予想されます。例えるならば、東日本大震災後にガソリンスタンドに長蛇の車の列が並んだ光景が、命に関わる病院の現場で起きることでしょう。3.11後に、ガソリンの供給が一時的に不足しました。そのため、ガソリンを入れたくても、1時間近く車で並ばなくてはなりません。また、順番がきてガソリンを入れようとしても、満タンではなく20Lまでと上限がありました。10年後の病院では、自宅療養されていたお年寄りが肺炎にかかり、入院を希望しても、急性期の病院のベッドが飽和状態となっているため、入院までに数日もかかるかもしれません。さらには、運良く入院しても1週間で治療を終えると、すぐに退院を促されることでしょう。たとえ一人でトイレまで歩けなくなっても。

地域包括ケアの重要性は叫ばれ、それぞれの地域では徐々に動いているのかもしれませんが。ただ、総論が多く、具体的に人生の最終段階にどのように関わるとよいのかという各論については、ほとんど耳にしません。本当にこのままで大丈夫なのでしょう？ホスピス病棟で12年、在宅緩和を実践して8年、のべ20年看取りを専門に関わってきた医師として、とても穏やかではいられない...というのが今の正直な心境です。これも例えるならば、洪水が来ることを知り準備をしているノア方舟のようなものなのでしょうか。洪水であれば、船を造ればよいのでしょうか、では多死時代に向けて何を準備しておけばよいのでしょうか？社会保障費は限界に達しているため、新たに病院を建設して人生の最終段階の人を収容することは困難です。具体的に地域（自宅+介護施設）で人生の最終段階の人とその家族を支援していくしかありません。

めぐみ在宅クリニックでは、人生の最終段階に対応できる人材育成プロジェクト（JSP）を2013年より開始し、2014年7月より、その一環として、人生の最終段階に対応できる人材養成講座（JSP養成講座）を開始しました。まずは半日（3時間）×4回、合計12時間を2014年10月までに終え、1期生38名を地域に輩出します。そして、ファシリテーターと参加者の意見を含めて見直しを行い、第2期の養成講座を年明けに

予定したいと考えています。さらには、指導者講習を企画し、めぐみ在宅クリニック以外でも、この講習の企画に賛同される事業所で、研修会を開くことができるように整備していきたいと考えています。

JSP養成講座に似たプログラムには医師向けの緩和ケア教育プログラムのPEACEプロジェクトと看護師向けのエンドオブライフケアの教育プログラムであるELNEC-Jがあります。それぞれ医師の教育、看護の教育の中では、大きなインパクトを残しています。しかし、まだ課題があります。まずは医療者向けであること、PEACEプロジェクトは、がん診療のため、がん以外（非がん）の疾患を取り上げていません。そして、一番の課題は、スピリチュアルケアに関するテーマが弱い点です。看取りに関わる上でもっとも難しいことは、今までできていたことができなくなることです。具体的には、一人でトイレに歩けなくなり、他の誰かに下の世話になるということです。このような状況で、しばしば、早く殺してほしいと嘆願することもあります。この苦しみの中で言葉が失い、看取りに関わりたくないとする医療者・介護者もいるでしょう。できていたことができなくなる苦しみの中で、自分の大切な選択肢を誰に手放すことができるのか、誰にゆだねることができるのか？どんな私たちであれば、苦しみを抱えた人からゆだねていただける私たちになれるのか？この課題について、他のプログラムではほとんど触れられていません。ここにJSP養成講座の魅力があると考えています。たとえ、明日にお迎えが来るとわかっていても、誠実に向き合い続け、援助を言葉にする力を持ち、実践できる人材を、これから育てていきたいと考えています。2025年まであと10年、残された時間は、わずかです。今できることを必死に取り組んでいきたいと思えます。（小澤竹俊）

### 小澤ゼミ合宿

7月26日27日の2日間、クリニックにて第1回小澤ゼミを無事に終えることができました。以前より、スピリチュアルケアについて、集中的にディスカッションできる場が欲しいと考えていました。基本的な総論をおさえたうえで、事例検討を2例、会話記録の検討3例、そしてロールプレイと濃密に行うことができました。九州、大阪、茨城、岩手と地方からの参加者をあわせて18名で熱く夜遅くまで議論することができました。それぞれの地で、この経験が活かされることを祈っております。

### 診療実績

	2006-2013年	2014年1~3月	2014年4月	2014年5月	2014年6月	2014年7月	2014年計	総計
訪問回数	26,421	1,308	468	505	527	539	3,347	29,768
自宅永眠	1,087	51	11	18	14	19	113	1,200
施設永眠	96	7	3	2	3	1	16	112
在宅(自宅+施設)	1,183	58	14	20	17	20	129	1,312
病院永眠	288	4	5	4	5	5	23	311

